

新検協だより

新潟県環境検査協会（略称「新検協」）

令和6年1月15日発行 No.52



「おやひこさま」と呼ばれ広く親しまれている彌彦神社。一の鳥居をくぐってすぐ左手に見えるのが「玉ノ橋」です。神様の渡る御神橋として建造され、和同四年（西暦711年）の記録にはすでにその名前が見られます。現在の玉ノ橋は明治二十九年に改築されたものですが、明治四十五年の弥彦大火の時に唯一焼失を逃れた構築物であり、火伏のお徳があるとも言われているそうです。

玉ノ橋（彌彦神社）
写真/山田 典寛

目次 -CONTENS-

- p2 ●新潟県環境検査協会事業報告
- p3-p5 ●マイクロプラスチックの調査手法に
関する新潟県の取組みについて
- p6 ●新検協創立50周年祝賀会
- p7 ●新任者基礎教育講座 実施報告

- p8-p9 ●機関紹介「株式会社N S S」
- p10-p12 ●部会活動報告
- p13 ●県外視察研修／試料採取を含む外
部精度管理 実施報告
- p14-p15 ●技師のひとりごと
- p16 ●会員及び役員名簿・編集ノート

新検協だよりについて

新潟県環境検査協会は、新潟県内の環境計量証明事業登録機関によって構成し、検査測定技術の向上ならびに検査測定に関する情報交換及び広報を目的として運営されていますが、新検協だよりはその情報発信誌として毎年発行しているものです。

令和5年度 新潟県環境検査協会(新検協)事業報告

● **通常総会** (創立50周年記念祝賀会)

令和5年6月9日

令和4年度事業報告

令和4年度収支決算

令和5年度事業計画

令和5年度収支予算

役員改選について

令和5年9月11日

令和6年2月9日 (予定)

● **甲信越環境測定分析機関連絡協議会への参加**

令和5年9月29日

● **新任者基礎教育講座**

令和5年12月1日

● **理事会**

令和5年6月9日

令和5年7月13日 (書面決議)

会員が行っている主な業務

● **健康で安心できる生活のために**

- ・ 飲料水、簡易専用水道の検査
- ・ 食品の成分分析や添加物検査
- ・ 病原性細菌などの衛生検査
- ・ レジオネラ検査
- ・ 残留農薬の検査

● **快適な生活環境を守るために**

- ・ 公共用水域、工場排水などの水質分析
- ・ 浄化槽の法定検査、放流水検査
- ・ 焼却場、ボイラー等の排ガス測定
- ・ 土壌中の有害金属等の分析
- ・ 作業環境測定
- ・ 焼却場、工場などの悪臭物質の測定
- ・ 工場や生活環境中の騒音、振動測定
- ・ シックハウス濃度調査

● **新たな環境問題に対応するために**

- ・ 排ガスや環境中のダイオキシン類測定
- ・ 遺伝子組み換え食品の分析
- ・ 空気や建材中のアスベストの測定
- ・ 食品や環境試料中の放射性物質の測定
- ・ 空間放射線量率の測定

● **自然環境を守るために**

- ・ 大規模開発に伴う環境アセスメント
- ・ 各種環境調査、解析
水質、底質、土壌等の調査
動物、植物等の生態系調査
騒音、振動、交通量調査
環境大気等の調査
日照、景観等の調査
酸性雨・雪等の調査
廃棄物関連の調査

● **環境保全型社会づくりの支援**

- ・ ISO14000s認証取得の支援と
コンサルティング
- ・ 環境保全、復元、創造のための
コンサルティング

マイクロプラスチックの調査手法に関する 新潟県の取組みについて

新潟県保健環境科学研究所

1 はじめに

プラスチックは、現代の私たちの生活になくてはならないものとなっており、世界のプラスチック生産量は年々増加しています。その一方で、全世界で少なくとも年間800万トンのプラスチックごみが海洋へ流出しているとの報告*1もあり、海洋汚染問題が深刻化しています。中でも直径5mm以下の微細なプラスチック片であるマイクロプラスチック（以下「MPs」という。）が生態系に及ぼす影響が懸念されており、環境中に排出されると回収が困難であるため、MPsに対する取組みが進められています。そこで、本稿では、MPsの調査手法に関する新潟県の取組みについて紹介します。

2 世界と国の動き

平成27（2015）年独G7首脳宣言において、海洋ごみ中のMPsが世界的な問題であることが確認されました。それを受け、環境省はMPsの海洋汚染抑制及び実態把握を推進することとしました。

環境省は「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」(平成21年法律第82号)を平成30年6月に改正し、事業者に対してMPsの海域への流出の抑制や、公共の水域又は海域に排出される製品へのMPsの使用の抑制、廃プラスチック類の排出の抑制に努めることを求める一文を加えました。

一方、海洋MPsの実態調査の手法は世界各国で異なっており、国際的なデータの比較が困難となっていたことから、環境省は国内外の専門家による国際専門家会合での議論を経て、「漂流マイクロプラスチックのモニタリング手法調和ガイドライン」(Guidelines for Harmonizing Ocean Surface Microplastic Monitoring Methods)を公開しています。また、令和3年6月に、海域への主な流出経路である河川を対象にした「河川マイクロプラスチック調査ガイドライン」(以下「環境省ガイドライン」という。)を公開し、更に、令和5年3月には新たに湖沼の調査方法を追記した「河川・湖沼マイクロプラスチック調査ガイドライン」を公開しています。

環境省では、海洋のMPsは平成30年度から毎年、河川及び湖沼のMPsは令和3年度及び4年度に実態調査を実施しています。平成30年度の海洋の調査報告書*2では、日本周辺海域のうち北陸から東北沖の日本海北部や山陰西部沖、九州・四国の太平洋岸といった海域においてMPsの密度が比較的高いと報告されています。また、令和3年度の河川の調査報告書*3では、信濃川を含む全国10河川で調査した結果、関東、北陸、中部、近畿地方でMPsの個数密度が高い傾向があり（平均個数密度2.62～9.19個/m³）、信濃川平成大橋は2.79個/m³（左岸、流心、右岸の平均）と報告されています。

3 新潟県の取組み

新潟県でも海岸漂着物対策として「新潟県海岸漂着物対策推進地域計画」を策定し、MPsを含めた海洋ごみの削減に取り組んでいます。

保健環境科学研究所では環境中のMPsの調査手法の検討を令和2年度に開始しました。対象とするMPsは、日本海への流入源となる河川水中のMPsに加え、国内外で存在が確認されている*4大気中のMPsとしました。その概要を以下に紹介します。

3. 1 河川水中のMPsについて

新潟県は多数の河川を有していますが、それらの河川水に含まれるMPsに関する報告は少なく、分布状況は明らかになっていません。そこで本研究所では、今後の県の施策の一助とするため、河川水中に含まれるMPsの調査手法を検討し、県内7河川を対象とした分布状況の調査を行っています。

(1) 調査手法

環境省ガイドライン公表前に検討を開始したため、その後公開された環境省ガイドラインに則るよう改良を行い、現在は以下の方法で調査を行っています。

① プランクトンネットを用いた試料の採取 (図1~3)

表層水から採取するため、浮きとおもりを用いて沈み具合を調整します。また、特注の治具でプランクトンネットにろ水計を固定し、ろ水量を測定します。プランクトンネットの目詰まりを防ぐため、ろ水量は10m³を超える程度を目安としています。

② 試料の洗い出しと水分除去

プランクトンネットからビーカーへ試料を洗い出し、ろ過により水分を除去します。ろ過にはPTFE製のフィルターを用います。

③ 夾雑物の分解処理と分離 (図4)

フィルター上にはMPsの他に草木の破片やプランクトン等といった夾雑物が含まれているため、過酸化水素水を加えて加熱し、これら夾雑物を分解します。MPsの変形等を防ぐため、温度は恒温槽等を用いて55℃に調整します。試料に天然の有機物の残渣や砂泥が多く残っている場合は、更に比重1.5のヨウ化ナトリウム水溶液を用いて比重分離を行います。

④ MPs候補粒子のピックアップと記録

夾雑物の分解処理後（比重分離後）、試料をシャーレに広げ、顕微鏡とピンセットを用いてMPsと思われる粒子や繊維（以下「MPs候補粒子」という。）を別のシャーレにピックアップします。これらのMPs候補粒子の大きさや色を写真等で記録します。

⑤ 成分分析

MPs候補粒子の成分をフーリエ変換赤外分光光度計（FT-IR）により分析します。KBr錠剤を用いた透過法の方が試料の紛失リスクが小さく、また、硬質紙製の使い捨て形成器を用いることで測定後の試料保存も可能でしたが、表面積が小さいMPs候補粒子に対しては感度が低く成分の特定が困難であることから、現在は全反射測定法（ATR法）により成分分析を行っています。

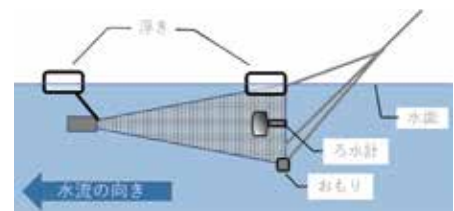


図1 水中のネットの模式図

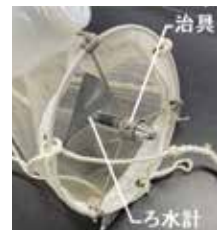


図2 ろ水計と取付用治具



図3 ネットによるMPs採取の様子

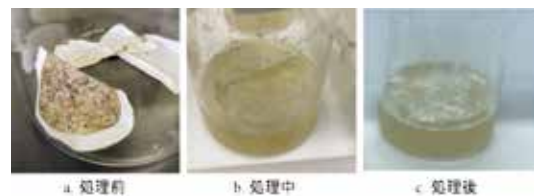


図4 分解処理の経過

(2) 県内河川から見つかったMPsとそのIRスペクトルの例 (図5)

これまでの調査により県内河川からポリエチレンやポリプロピレン等のMPsが見つかり、現在結果をとりまとめています。MPsは紫外線等の影響で劣化しているため、本来見られるピークの他にC=O結合等の酸化を示すピークが見られる場合も多く、分析に経験を要します。

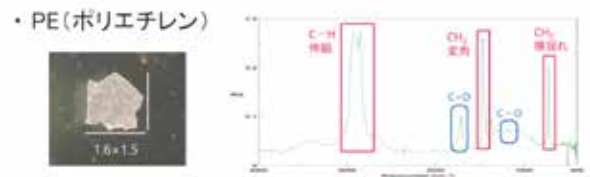


図5 MPsとそのIRスペクトルの例

3. 2 大気中のMPsについて

大気中にも細分化された微小なMPsが存在していますが、大気中MPsに係る調査手法等の研究は始まったばかりで、信頼性や再現性のある調査手法がまだ確立されていない状況です。

そこで、本研究所においても、一部の研究者による検討結果を参考に調査手法を検討しました。

まず、PTFEフィルター上に大気試料を捕集します。そのフィルターを超純水で抽出した後、河川水中のMPsと同様に、有機物分解及び比重分離を行って夾雑物を取り除き、顕微ラマン分光装置により測定します。

大気中MPsは微小（概ね100 μ m未満）なため、FT-IRより感度の優れる顕微ラマン分光装置を用いています。また、分析の際には不織布マスクの使用を避け、綿製白衣を着用するなどし、試料の汚染を防止しています。

この手法で県内の大気試料を調査した結果、一部試料からポリエチレンやポリプロピレン等のMPsが検出されました。

4 今後の取組みについて

前述のとおり、国内のMPs汚染に対する法的な規制は「流出・使用の抑制に努める」段階に留まっていますが、MPs汚染対策への関心は世界的に高まりつつあります。新潟県としましては、関係機関の動きを注視し、必要が生じた場合に実態調査を速やかに開始できるよう、引き続き体制を構築していきたいと考えています。

- *1 Report and Studies 90 “Sources, Fate and Effects of Microplastics in the Marine Environment: a Grobal Assessment” ,p14-29,I.M.O.L. (2015)
- *2 国立大学法人東京海洋大学：平成30年度 環境省請負業務 平成30年度漂流マイクロプラスチックを含む漂流・海底ごみの分布調査及び指標等検討業務報告書，平成31年3月
- *3 環境省：令和3年度河川マイクロプラスチック調査結果概要版
(<https://www.env.go.jp/content/000075084.pdf>)
- *4 大河内ら：大気中マイクロプラスチックの現状と課題, 大気環境学会誌, 57, A66-A72(2022)

新潟県環境検査協会50周年記念祝賀会 報告



去る6月9日、新潟県環境検査協会50周年祝賀会をANAクラウンプラザホテル新潟にて開催しました。

祝賀会では、ご来賓を代表して一般社団法人日本環境測定分析協会 関東支部長 大角様からご祝辞を賜りました。

続いて、『新潟県環境検査協会50年の歩み』と題し新潟県環境検査協会 金子元会長が講話を行いました。

祝賀会の中ほどでは、ザ・ウィンド・アンサンブル5人による演奏会を催しました。

また、ご来賓として、

- | | | |
|-------------------|------|-------|
| ・長野県環境測定分析協会 | 会長 | 梅垣 様 |
| ・新潟県環境局 | 副局長 | 梅津 様 |
| ・新潟県保健環境科学研究所 | 所長 | 栗林 様 |
| ・新潟県環境局環境対策課 | 参事課長 | 葉葺 様 |
| ・新潟県福祉保健部生活衛生課 | 課長 | 湯本 様 |
| ・新潟市環境部環境対策課 | 課長 | 田辺 様 |
| ・一般社団法人新潟県貯水槽管理協会 | 会長 | 北澤 様 |
| ・新潟県環境整備事業協同組合 | 理事長 | 五十嵐 様 |
| ・一般社団法人浄化槽整備協会 | 専務理事 | 高頭 様 |

をお迎えしました。

ご出席の皆様と異業種交流や情報交換の場として、そして往時を振り返る時として、和やかに過ごしていただき、閉宴となりました。



ご多忙にもかかわらず多くの方々にご出席いただき、お蔭様で50周年祝賀会を無事終えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

新任者基礎教育講座報告

会員機関における品質及び技術力の向上を目的に、(一社)日本環境測定分析協会関東支部との共催で3年ぶりに新任者基礎教育講座を開催しました。

開催日時：令和5年12月1日(金)
10時00分～16時40分(講座)
17時00分～19時00分(交流会)

参加者：7機関29名
(経験1年未満；48%、2-3年；48%、
3年以上；3%)



講座の内容：

- 講義1 計量法の仕事とは「計量法及び環境関係法規」
 - 講義2 労働安全衛生(避難方法等実際にあったこと)
 - 講義3 精度良い測定のために1
「サンプリングから環境測定に関する化学分析の基礎」
 - 講義4 精度良い測定のために2
「測定値の計算から化学分析におけるデータの取り扱い」
- 日環協作成の新任者教育テキスト(第6版、2022年版)及び講師作成の資料を用いて実施



その他：

今回の講座開催にあたり、講師の皆様をはじめ関係各位には、事前の準備段階から当日の講座、交流会まで多大なお力添えを賜りました。心から感謝申し上げます。

また、受講された皆様には、知識の習得にとどまらず、6年ぶりに開催された交流会で貴重な交友関係を築くことができた有意義な会であったと信じています。



株式会社 NSS



地域の環境

確かな技術で分析・調査

〒959-0232 新潟県燕市吉田東栄町8番11号

TEL : 0256-78-7611

FAX : 0256-78-7622

URL : <https://www.nss-lab.co.jp/>

E-mail : nss_info@nss-lab.co.jp

～ より良い環境を、未来へ ～

環境のエキスパートとして、地域社会に貢献いたします。

近年の社会情勢の急激な変化により、従来通りの事業の継続・拡大には新たな視点が必要と言われ続けております。沿革のとおり、当社は平成19年設立のまだまだ歴史の浅い企業ではありますが、新しいからこそ古い価値観に固執することなく、環境分析・環境調査分野において多様化・高度化する専門技術や知識を常に研鑽・吸収し、チャレンジし続けることで、今後も、お客様が必要とする要求に応え、確かな技術で、地域社会の環境保全活動や環境改善などに繋がる企業活動を展開して参ります。

機 関 紹 介

沿 革

- 平成19年10月
株式会社N S S 設立
- 平成21年8月
つばめ技術センター開設
- 平成24年9月
燕市に本社移転
- 平成27年5月
新潟市に新潟営業所を開設
- 平成27年5月
福島県郡山市に福島営業所を開設
- 令和2年9月
宮城県白石市に東北営業所を開設



業 務 内 容

【分析事業】

- 水質・底質・廃棄物等の分析
- 大気質・臭気の測定、ガス成分分析
- 作業環境測定
- 騒音・振動測定
- 作業環境測定
- 石綿測定・分析
- 室内環境測定
- 実証実験・研究



【環境調査事業】

- 環境アセスメント、生活環境調査
(水質・底質調査、大気環境・気象調査、風害調査、騒音振動調査、低周波音調査、悪臭調査)
- 自然環境調査
(植物調査・動物調査・テレメトリー調査・魚毒性調査・環境学習)
- 環境基本計画

業 務 紹 介 (当 社 パ ン フ レ ッ ト よ り)



精度管理部会活動報告

精度管理部会長 野島 武志

精度管理部会は、我々検査機関が重要視しなければならない分析精度の向上を目指す部会として、外部精度管理、内部精度管理を通じて、会員機関同士の技術交流・情報交換を行っています。本年度におきましては、以下の様な活動を行っております。

1. 会 議

(1) 定例全体会議（合同部会）

開催日：令和5年5月19日

場 所：新潟東映ホテル

参加者：精度管理部会所属10機関（計11名）

内 容：令和4年度事業活動報告及び収支決算報告
令和5年度事業計画及び収支予算（案）
高校生ものづくりコンテストへの対応について

(2) 役員会

開催日：令和5年6月27日

開催方法：オンライン（Microsoft Teams）

参加者：部会長及び副部会長（計3名）

内 容：高校生ものづくりコンテストへの対応について
精度管理部会 全体会議 議題原案作成及び開催方法について
精度管理に関する研修会の開催について

(3) 部会全体会議

開催日：令和5年7月27日

場 所：株式会社N S S

参加者：精度管理部会所属10機関中9機関（計11名）

内 容：令和5年度部会活動について具体的な内容の討議

2. 部会活動

(1) 外部精度管理

「公共用水域におけるサンプリングを含む河川水分析のクロスチェック」

(2) 内部精度管理

「採水から輸送及び分析着手までの試料取り扱いについて」

(3) 精度管理に関する研修会

外部精度管理、内部精度管理の結果をとりまとめ、計量証明部会と合同の研修会を令和6年2月22日に開催予定

計量証明部会活動報告

計量証明部会長 田中 教雄

計量証明部会は、環境計量証明事業に係る分析・測定技術の向上を目的として発足した部会です。現在、新検協の全機関（11機関）が加入しています。

今年度の部会活動は、総会で承認された事業計画に従い、以下に示す内容で行っています。

1. 定例全体会議

日 程：令和5年5月19日（金）

場 所：新潟東映ホテル

出席者：11機関12名

内 容：令和4年度事業報告及び収支決算報告について
令和5年度事業計画及び収支予算（案）について

2. 役員会

日 程：令和5年7月13日（木）

場 所：一般財団法人 新潟県環境衛生研究所

出席者：部会長及び副部会長3機関3名出席

内 容：令和年度事業計画内容について（技術研修会、県外視察研修他）

3. 研修会

(1) 技術研修会

日 程：令和5年9月29日（金）

場 所：新潟東映ホテル

参加者：8機関15名

内 容：「水質試料のサンプリング」

(2) 新任者基礎教育講座

日 程：令和5年12月1日（金）

場 所：新潟東映ホテル

参加者：7機関29名

内 容：日環協の教材「新任者教育テキスト」（第6版・2022年）

(3) 合同研修会（精度管理部会及び計量証明部会）

令和6年2月22日（木）に、精度管理部会と合同で開催予定

4. 県外視察研修

日 程：令和5年11月17日（金）～18日（土）

視察先：アジレント・テクノロジー株式会社（東京都八王子市）

参加者：8機関11名

5. 2023年度第30回日環協環境セミナー全国大会 in ふじのくに

日 程：令和5年10月19日（木）～20日（金）

場 所：静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ、ホテルアソシア静岡

発表者：一般財団法人 上越環境科学センター 長井 友和

演題：「加熱気化水銀測定装置を用いた石灰石の測定方法の検討」（優秀賞を受賞）

水道・食品部会活動報告

水道・食品部会長 星野 将貫

水道・食品部会は、水道水質及び食品に係る検査技術の向上を目的に2つのグループを設け、グループごとに検査技術に関する研修、広報活動及び情報交換を行っています。本年度の事業活動は、部会全体会議において審議された事業計画に沿って行っています。本年度の活動内容について報告します。

1. 合同部会会議（水道・食品部会全体会議）

開催日：令和5年5月19日

場 所：新潟東映ホテル

出席者：7機関、8名出席

内 容：令和4年度事業報告及び収支決算報告について
令和5年度事業計画及び収支予算（案）について

2. 全国給水衛生検査協会 関東甲信越支部理事会

(1) 第1回理事会

開催日：令和5年6月1日

場 所：ANAクラウンプラザホテル新潟

(2) 第2回理事会（予定）

開催日：令和6年3月

場 所：未定

3. 研修会

(1) 食品グループ研修会

開催日：令和5年11月22日

場 所：サトウ食品株式会社

内 容：工場見学及び衛生講話

参加者：水道・食品部会6機関（13名）



(2) 20条グループ研修会（予定）

開催日：令和6年3月1日

場 所：新潟東映ホテル

内 容：有機フッ素化合物について

県外視察研修 実施報告

計量証明部会長 田中 教雄

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行になったことを受けまして、令和5年11月17日に4年ぶりとなります県外への視察研修を実施いたしました。私たち検査機関が日頃から分析装置でお世話になっておりますアジレント・テクノロジー株式会社（東京都八王子）様を訪問させていただきました。座学では、装置に関する基本的な原理や注意事項から将来のラボ像などをお話し頂きました。



また、ラボ見学では、最新の装置を目の前にしながら、わかりやすく装置の説明をして頂きました。参加して頂いた皆様にとって有意義な研修会になったと思います。

今回の視察研修を快く引き受けて下さりましたアジレント・テクノロジー株式会社様に深く感謝申し上げます。

試料採取を含む外部精度管理 実施報告

精度管理部会長 野島 武志

精度管理部会では会員機関の分析精度向上を目指して毎年精度管理を実施しています。

今年度は「公共用水域におけるサンプリングを含む河川水分析のクロスチェック」と題し、以前から要望の多かった、試料採取を含めた形式での外部精度管理を実施しました。

- (1) 実施日：令和5年10月19日
- (2) 実施場所：新川水系大通川 立志橋（仲良し橋）(新潟市西蒲区馬堀地内)
- (3) 参加者：9機関23名
- (4) 実施内容：『個別採水』順番に橋中央部から各機関のSOPに従い採水を実施
『同時採水』橋上に一列に並び、全機関一斉に採水を実施
- (5) 分析項目：pH、SS、BOD、DO及び採取状況の報告
- (6) 試料数：3試料（別に配布した共通試料を含む）
- (7) その他：採水器具、採水量、採水瓶の種類及び本数並びに分析方法は各機関に一任

当日は晴天に恵まれ、全ての機関が順調かつ安全に採水を実施することができました。また、日頃見る機会がない他機関の採水方法や手順等を間近で見ることができ、今後の業務の参考になったのではと思います。

分析結果及び採水状況等については今後取りまとめを行い、令和6年2月開催予定の研修会にて報告予定です。



同時採水風景

あつさ

一般社団法人 県央研究所 樋口 哲平

「今日も暑いですね。」そんな言葉が挨拶の代わりになるくらい暑い日が続いた夏だった。暑すぎるとどうしても外に出る気が起きず、冷房がよく効いている室内にこもりがちであった。そもそも新型コロナウイルス感染防止のため外に出る機会を失っていた時、ゲームをしたりアニメを観たりとインドアの趣味に没頭しすぎて、規制緩和してからも外に遊びに行こうという気力が湧かなかったのが事実だ。そんな中、「技師のひとりごと」の原稿依頼を頂いて何を書こうかといろいろと悩んだが、月並みに昔の自分を振り返っていきたいと思う。

失礼な話になるが、高校生の頃の私は新潟に何も魅力を感じていなかった。それよりも新潟の地から早く飛び出して、都会に行きたい、東京に行きたいという気持ちが強かった。その気持ちの甲斐あってか何とか東京の大学に進学することができた。全く知らない土地での人の多さ、建物の多さに驚きながらも、初めて見た街並みにドキドキよりもワクワクを強く感じたことを覚えている。その時、自分の知らない光景を見ることが、ものすごく好きなことに気づいた。その後も、強い好奇心から右も左も知らない様々な街を歩いた。特にサブカルチャーが好きだった私は下北沢や吉祥寺、中野の街に遊びに行くことが多かった。そのうち、東京の外の街にも出掛けてみたくなりアルバイトでお金を貯めて、横浜に行ってみたりレンタカーを借りて富士山に行ってみたり鈍行列車を乗り継いで東京から大阪まで行ってみたり、とにかく知らない土地に足を運んだ。好奇心だけを原動力にたくさんの知らない光景を見たことは、とても良い経験になったと思う。他にも大学時代の友人に出会えたことは、かけがえのないものであった。環境の違う土地で育った人と私自身の考え方は違うことが多くて、そんな友人達と接するのは新鮮で楽しかったからだ。総じて東京で過ごした大学時代は、自分の知らない世界を求めて歩き尽くした時期であった。大学卒業後は、短い期間だが上越に住んでいた。都会からは離れることになったが、初めて自分の車を持つことができ、おかげで行動範囲が広がり様々な土地に出掛けることができるようになった。富山や長野、岐阜などの県外にも出掛けることができ、まだまだ知らない土地はたくさんあるのだと実感した。そしてしばらく経った時、新潟にある実家に戻るようになった。定期的に里帰りをしていたので久しぶりという感覚はなかったが、それでも高校生の頃感じていた何もないという感覚にならず、それよりも新しい光景を見た気がした。夏のカエルの合唱、秋の稲刈り、冬の雪原など特に四季の変化を強く感じることができた。高校生の頃はいかに視野が狭かったのかと痛感したが、これもまた新しいものに触れた気分であった。

そして現在に戻る。内にいることが心地よくて外に出掛けたいという好奇心を忘れて久しいが、感染症防止の規制緩和を機に外に目を向けていこうかと思う。まだまだ自分の知らない、行ったことのない土地は山ほどあるからだ。グローバルに考えれば外国にも行ってみたいし、新潟県内でも最近、移築したという新発田の蔵春閣にも行ってみたい。また以前に行ったことのある土地に再び出向いても、違った見方や新しい発見があるかもしれない。時間やお金が掛かるかもしれないが、のらりくらりと気長に旅をする。この原稿執筆を契機に昔の自分を振り返ることができ、忘れていた気持ちを思い起こすことができた。そして最後に今日これから先、見たことのない光景を見るために今一度、好奇心という熱さを手にして歩き続けていきたい。

昔は良かった症候群

株式会社 県都食品環境分析センター 木村 貴史

先日、ゲームばかりしている子供を外へ連れ出すことを目的に、外でサッカーをしようと広場へ行ってきました。年齢を重ねていくごとに運動する機会が減ってきている方も多いと思いますが、私自身もそのうちの一人で、ここ数年は運動と言えるような事はほとんどしていないような気がします。

たまには汗をかいてリフレッシュでも出来るかなと意気込んでいたものの、いざ動いてみると、体は重いし、足は上がらないし、胸が苦しいし・・・と、リフレッシュとは程遠く、理想と現実の違いを実感させられる苦行でしかありませんでした。しまいには広場の隅で朽ち果てながら、(昔は体も軽かったし運動も得意だったのに、昔みたいに戻りたいなあ、昔は何をしていても楽しかったなあ・・・)なんてことを考えていました。

そういえば、「昔は良かった」「あの頃に戻りたい」・・・この手の言葉は、過去を懐かしんでいるような言葉だが、実は“心を老いさせる言葉”という話を聞いたことがあります。

人間は、嫌な記憶・良い記憶を大体同じ程度に記憶するものだが、嫌な記憶は出来るだけ取り除きたいという心理が働き、その引き出しをめったに開けなくなり、逆に良い記憶は何度もその引き出しを開けて思い出し、再現しようとしします。脳の前頭前野がその反復をすることにより、結果的に嫌な記憶は頭の片隅に追いやられ、しまいには忘れていき、良い記憶ばかりが思い出されるそう。

前頭前野は、考える・記憶する・感情コントロール、等の役割を担っているが、この錯覚ばかりに目が行ってしまい、「昔は良かった」「あの頃に戻りたい」状態が長く続くことは、新しい物事や自分と違うものが受け入れにくくなり、現在を生きるエネルギーが減ってきていることにつながってしまうということだ。

こんな話を聞くと、過去を懐かしんでいた自分に少し焦りを感じてしまいます。確かに、今現在が絶好調で何もかも楽しんでいる人からは「昔は良かった」なんて言葉は聞かないような気がする。コロナ渦をきっかけに、ずっと続けていたことをやめてしまった人もいるかも知れませんが、「昔は良かった症候群」にならない為にも、定期的に楽しい記憶や思い出を作っていく、心を動かしていくことが大切ではないでしょうか。

新潟県環境検査協会会員及び役員

正会員

機 関 名	所 在 地	TEL/FAX
(株)アート環境設計	〒950-2053 新潟市西区寺尾前通1丁目15番1号	025-233-4333/025-233-4353
(株)NSS	〒959-0232 燕市吉田東栄町8番11号	0256-78-7611/0256-78-7622
(一財)下越総合健康開発センター	〒957-8577 新発田市本町4丁目16番83号	0254-23-8352/0254-22-0492
(一社)県央研究所	〒959-1241 燕市小高6014番地	0256-46-8311/0256-46-8310
(株)県都食品環境分析センター	〒950-0022 新潟市東区幸栄1丁目7番12号	025-270-8890/025-270-8132
コープエンジニアリング(株)新潟分析センター	〒950-3101 新潟市北区太郎代1448番地3	025-255-2166/025-257-4871
(一財)上越環境科学センター	〒942-0063 上越市下門前1666番地	025-543-7664/025-543-7882
東北緑化環境保全(株)新潟統括支社	〒957-0101 北蒲原郡聖籠町東港1丁目1-155	025-256-2506/025-256-3134
(一財)新潟県環境衛生研究所	〒959-0291 燕市吉田東栄町8番13号	0256-93-4509/0256-92-6899
(一社)新潟県環境衛生中央研究所	〒940-2127 長岡市新産2丁目12番地7	0258-46-7151/0258-46-9851
(一財)新潟県環境分析センター	〒950-1144 新潟市江南区祖父興野53番地1	025-284-6500/025-284-0022

賛助会員

機 関 名	所 在 地	TEL/FAX
鐘通化学薬品(株)	〒951-8141 新潟市中央区関新1丁目7-22	025-231-7121/025-231-7123
(株)ケンテック 東日本営業所	〒950-0831 新潟市東区下場25-1	025-279-2031/025-279-2032
島津サイエンス東日本(株)新潟支店	〒950-0923 新潟市中央区姥ヶ山1-8-26	025-286-7191/025-286-7193
(株)タケショー	〒950-3122 新潟市北区西名目所5503番地1	025-278-2001/025-278-2108
北陸工機(株)	〒942-0001 上越市中央3丁目14-34	025-543-2434/025-544-5588
富士フイルム 和光純薬(株)	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-4-1	03-3270-8248/03-3270-8545

役 員

役職	氏 名	機 関 名	備考	役職	氏 名	機 関 名	備考
会 長	三富 潤一	(一財)新潟県環境衛生研究所	常任理事 団体専任理事 (白鷺環境 東栄支部)	理 事	田中 教雄	(一財)新潟県環境衛生研究所	計量証明部会長
副会長	横田 清士	(一財)上越環境科学センター	常任理事	理 事	野島 武志	(一財)新潟県環境分析センター	精度管理部会長
理 事	猪俣 太郎	(一財)新潟県環境分析センター	常任理事 団体専任理事 (白鷺環境 東栄支部)	理 事	星野 将貴	(一財)上越環境科学センター	水道・食品部会長
理 事	野口 修也	(一社)新潟県環境衛生中央研究所	常任理事	監 事	三田 政弘	(一財)下越総合健康開発センター	
理 事	佐藤 久成	東北緑化環境保全(株)新潟統括支社	理事	監 事	滝沢 博雄	コープエンジニアリング(株)新潟分析センター	



編集ノート

新型コロナウイルスが5類に移行し、感染症へのリスク管理は継続しつつも、会食を伴う会合ができるようになりました。令和5年6月には新検協創立50周年祝賀会も無事に開催することができ、ひとえに会員ならびに関係者の皆様のお陰と感謝しております。この記念すべき節目に役員としてかかわることができたことを嬉しく思い、次の50年へバトンを渡す役割に身の引き締まる思いです。



編集委員/計量証明部会 田中
 精度管理部会 野島
 水道・食品部会 星野
 事務局 山田